

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 日本防火協会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

新たに33のモデルクラブを選定

少年消防クラブ活性化推進会議

少年消防クラブの活動及び組織の活性化を推進するため、少年消防クラブ活性化推進会議においては、先進的な活動等に取り組みようとするモデル少年消防クラブの募集を行っていたところですが、平成23年3月に新たに33クラブを選定しました。これにより、モデル少年消防クラブは、平成22年に選定された55クラブと合わせ、88クラブとなりました。

北海道(札幌市) 西町 少年消防クラブ

「火事は恐ろしい」一瞬にして家も家財も、時には人間の命までも……。子どもたちの立場から啓蒙思想を呼び起こそうと、平成元年5月27日、西町連合町内会の区域内(町内会加入約1万4,000世帯)で発足して、22年になりました。

当クラブの活動は、入団式に始まり、担当の消防出張所庁舎前にプランター花植え。リーダーの指示のもと規律訓練、ロープ結索訓練などの基本動作の訓練を行います。

設立時から実施している一泊研修では、火災を想定しての放水訓練、消火器の取り扱い、屈折車の体験搭乗など消防業務体験を通して地域の防災リーダーとして学んでいます。また、宿泊をすることでクラブ員同士の絆も深まります。

歳末の防火パトロールは、地区消防団員と連携し

て市民に防火の呼びかけを実施しています。

今後は、高齢化が進む社会で、応急救命の技術などをさらに研鑽し、指導者として地域で活躍できる人材の育成に取り組んでいきたいと思っています。

東日本大震災に見舞われた地域の方々にお見舞いを申し上げますとともに、地域防災には日ごろの訓練と、人材育成の必要性を感じられました。



北海道(北見市) 太陽わらべ太鼓 少年消防クラブ

北見市は、北海道のオホーツク海側に位置するオホーツク圏の中核都市として、経済・産業の中心地として役割を果たしています。主な基幹産業は農業、林



業、観光産業、製糖業が主産業で、特に畑作農業が盛んで玉葱の生産量は国内生産量の25%を占めています。

また、平成18年の市町村合併により、大雪山を横断する石北峠からオホーツク海に面するホタテの名産地常呂町まで、と北海道で一番広い面積を有する市となりました。

東西に延びる道路延長は約110kmで、その距離は東京駅から箱根までの距離に相当します。

その広大な大地の中で、太陽わらべ太鼓保存会のメンバーが母体となる「太陽わらべ太鼓少年消防クラブ」が平成22年11月に発会致しました。

下は小学校1年生から、上は高校2年生までの幅広い年齢層で構成されていま

す。昨年は、3年に1度開催される防火イベント「北見地区幼年少年婦人防火大会」に初参加し、来場者に防火PRを行うとともに力強い太鼓演技を披露しました。

今後は防火や防災対応の知識の習得と基本訓練を重ね、将来の地域防災の担い手を目指して元気に活動していきます。

青森県(十和田市) 十和田西高校 少年消防クラブ

私たちの住む十和田市は、青森県の南東部にあり、神秘的湖十和田湖・奥入瀬渓流等、豊かな自然に囲まれており観光客で賑わう人口6万6,000人の田園都市です。

平成23年4月、青森県では2校目となる高校生の少年消防クラブを結成することになりました。

私たちの学校は、地元



観光資源を活用した学習を通して、ビジネスに関する知識と技術を習得し、上級の資格を取得して進学・就職を目指している全国でも数少ない観光科があります。

クラブ員は、校内で組織する規律委員会のメンバー8人が属し、今後は消防署や消防団、また、婦人防火クラブの方々の指導を頂きながら防火防災に関する知識を深め、地域防災の担い手として活躍していきたいと考えています。

今年度は、防火パレード等の各種消防行事に積極的に参加すると共に、地域の防災事情の把握、救命講習の受講、住宅用火災警報器

岩手県(遠野市) チャレンジ防災スクールTONO「まぶりットキッズ」

設置率向上の広報活動等に取り組み、地域に貢献できるように活動していきたいと思っています。

マブリティットキッズは、岩手県のほぼ中央の遠野市にあり、遠野市消防本部が主催する「チャレンジ防災スクールTONO」を修了した小学生で結成されています。

スクールは、「児童が災害時に自らの安全を確保できる」「地域の安全に役立つことができる」「次代の防災リーダーを育成する」

「守る人を方言で「まぶり」として、市の行事やお祭りなどで防災のPR活動を行い、地域防災力向上の一翼を担っています。



まだ結成して間もないですが、子どもたちが防災を自分のことと捉えて活動することで、親や地域に防災意識が浸透する波及効果を期待しながら、地元を愛し、愛される組織となるよう取り組んでまいります。

モデル少年消防クラブ一覧

- 北海道(札幌市) 西町少年消防クラブ
- 北海道(北見市) 太陽わらべ太鼓少年消防クラブ
- 青森県(十和田市) 十和田西高校少年消防クラブ
- 岩手県(遠野市) チャレンジ防災スクールTONO「まぶりットキッズ」
- 宮城県(南三陸町) 南三陸町立歌津中少年消防クラブ
- 埼玉県(三郷市) 三郷市少年消防クラブ
- 東京都(中央区) 日本橋消防少年団
- 東京都(台東区) 上野消防少年団
- 東京都(台東区) 浅草消防少年団
- 東京都(墨田区) 向島消防少年団
- 東京都(目黒区) 目黒消防少年団
- 東京都(大田区) 大森消防少年団
- 東京都(杉並区) 荻窪消防少年団
- 東京都(荒川区) 荒川消防少年団
- 東京都(荒川区) 尾久消防少年団
- 東京都(板橋区) 板橋消防少年団
- 東京都(板橋区) 志村消防少年団
- 東京都(江戸川区) 江戸川消防少年団
- 東京都(江戸川区) 葛西消防少年団
- 東京都(江戸川区) 小岩消防少年団
- 東京都(調布市) 調布消防少年団
- 東京都(小平市) 小平消防少年団
- 東京都(福生市) 福生消防少年団
- 神奈川県(海老名市) 海老名市少年消防クラブ
- 神奈川県(南足柄市) 南足柄市中学校消防クラブ
- 山口県(宇部市) 厚南地区少年消防クラブ
- 徳島県(美波町) ワイキキ子消防クラブ
- 高知県(四万十市) 下田少年消防クラブ
- 高知県(香南市) 赤岡町少年防災クラブ
- 高知県(黒潮町) 伊田少年消防クラブ
- 福岡県(八女市) 八女市矢部少年消防クラブ
- 大分県(日田市) 高瀬少年消防クラブ
- 沖縄県(伊平屋村) 伊平屋村少年消防クラブ

※南三陸町立歌津中少年消防クラブの紹介は次号で掲載します。



埼玉県
(三郷市)
三郷市
少年消防クラブ

三郷市少年消防クラブは、消防本部管轄区域の三郷市内の小学5年生から6年生を対象にクラブ員を公募し、32名の少年少女が集まり、平成23年4月1日に発足しました。



少年消防クラブの発足は、消防本部の長年の夢であって、平成22年度1年を掛け、運営母体を学校に委ねるのか、公募による消防本部運営か、論議を重ね、埼玉県東南部地域では、初めてとなる公募による組織となりました。

公募にしたことで、今後は中学生や高校生にまで対象を広げようと夢を膨らませています。

4月2日(土)の結成式では、真新しい活動服に袖を通して、緊張気味なクラブ員32名がクラブのシンボルでもある少年消防クラブ旗の下、元氣いっぱい誓いのことを唱和しました。

今後の活動は、5月消防基本訓練、7月3DAYS(消防体験学習)、8月市防災訓練の参加、10月防災学習センターへの

課外研修、11月親子救急教室、秋春の火災予防運動や出初式への参加を計画しています。

指導するクラブ育成者もクラブ団員も活動1年生、まずはみんなで楽しみながら、と考えています。



東京都
(中央区)
日本橋
消防少年団

日本橋消防少年団は、今年4月に18名の新入団員を迎え、中学生7名、小学生30名の総勢37名で活動しています。

当団の特徴は、各訓練を通じて防火防災に関する知識や技術を身につけるだけでなく、地域で行われる行事にも積極的に参加し、防火防災の広報活動を行っていることです。

例えば、「名橋 日本橋を洗う会」では、橋を洗うデッキブラシに家具転倒防止器具設置を呼びかけるシールを貼ったり、「水天宮の節分祭」では、火の用心のかけ声で豆まきをするなど、地域の防火防災力向上を意識した活動を実施しています。

また、地元で開催される防火訓練や防災フェアで、

子どもたちへの訓練指導を体験するなど、団員が将来の地域の防災リーダーとしての意識を高められるように工夫しています。

モデル少年消防クラブとしての2年間、日本各地につながる道路の起点「日本橋」のように、さまざまな活動を通じて日本各地の少年消防クラブと交流を深めていきたいと思っています。

主な活動は、団員としてふさわしい態度を身につけることを目的とした規律訓練に始まり、消火、結索、救急等の知識・技術を身につける訓練や、老人ホーム訪問や火災予防広報活動など地域への奉仕を目的とする活動を行っています。また、夏のキャンプやもちつき大会など年間を通してさまざまな活動を行っています。

昨年は、保護者も参加して心肺蘇生を学ぶ親子救命講習や自然の中でチームに分かれ「防災スタンプラリー」なども行いました。

防火防災の知識・技術を

東京都
(台東区)
上野
消防少年団

上野消防少年団は、昭和53年12月に発団し、今年で33年を迎えます。活動地域は東京都台東区でも上野駅や上野公園を中心に人が集まる活気のある街で、羽原克也団長を中心に指導者16名、準指導者3名、団員21名がそれに負けない元気で活動しています。

春と秋の火災予防運動時には、下町らしく提灯を手を街を練り歩き、火災予防を広報します。また年末には、恒例となった江戸っ子の気質を継ぐ「防火祈願餅つき大会」を行っています。住民同士のつながりを大切にする浅草の昔ながら

東京都
(台東区)
浅草
消防少年団

浅草消防少年団は、北は国際的な観光地浅草、南は玩具や花火の問屋街、最近では隅田川越しにそびえたつ東京スカイツリーが眺められる、江戸の風情と近代的な景観が同居した賑やかな街を本拠地として活動しています。

向島消防少年団の活動する、東京都墨田区北部は、震災時に家屋倒壊など特に危険な地域として、東京都から平成10年に発表されました。そのことから、防災訓練等に多くの区民が参加するなど、防火防災の意識、自助共助の思いがとて



身につけ、団体生活を通して責任感のある大人に成長することを目標に、今年度も仲良く元気に活動します！

の心を受け継ぎ、お年寄り家庭等を訪問し、つきたてのお餅を笑顔とともに届けています。

祭り等も年間を通して多く催され、その際に、人形店やアケセサリー店が軒を並べる浅草橋地区や、全国から飲食店関係者が商売道具を求めに訪れるかっぱ橋道具街があります。そこを火災予防の大横断幕や住宅用火災警報器設置促進の昇り旗を掲げ、パレードによる火災予防広報を声高に呼び掛けます。

台東区防災訓練では、消防団や災害時支援ボランティアの大人たちに負けず劣らさず、隅田川に向けたD級可搬ポンプにより、勢いよく一斉放水を披露しました。



向島消防少年団は「明るく、楽しく、元氣よく」をモットーに活動しています。

主な活動は、団員としてふさわしい態度を身につけるための規律訓練をはじめ、いざという時のAED等による応急救護訓練を行い、中学生団員はD級可搬

東京都
(墨田区)
向島
消防少年団

向島消防少年団は「明るく、楽しく、元氣よく」をモットーに活動しています。

主な活動は、団員としてふさわしい態度を身につけるための規律訓練をはじめ、いざという時のAED等による応急救護訓練を行い、中学生団員はD級可搬

活動の特徴は、地域の方と積極的に交流することで、消防団操法大会や墨田区総合防災訓練等に参加して活動成果披露を行ったり、街に出て住民に対し火災予防を呼びかけたりするなど地域住民との接する時間を大切にしています。

今後は活動を通して、将来地域の防火防災リーダーの担い手として活躍が期待されています。

目黒消防少年団は、昭和53年に発足し、これまで活動を続けてきました。平成23年4月現在で中学生団員が7名、小学生団員が14名、計21名の団員で構成されています。

決して大規模な団では無いですが、その分チームワークは抜群で小回りも効くことから年間数々の小学校や町会・自治会といった地域の防災訓練に参加し、D級可搬ポンプの消火訓練、AEDの取り扱いなどの応急救護訓練、防災寸劇の披露等、地域の防災リーダーとして積極的に活動しています。

平成22年度は小学生による防災マップコンクールに参加し、前作品の反省点から目黒の地域特性やレイアウトの大幅な変更を行った結果、消防庁長官賞を受賞できたのは、大きな励みとなりました。

このように私たちの活動は地域に根差したものであり、これからも消防署や消防団と共に地域防災に少しでも貢献したいと思っています。



東京都
(目黒区)
目黒
消防少年団

皆さんこんにちは！ 私たちは目黒消防少年団です。このたびはモデル少年消防クラブの選定を受けることができ、今後の活動の更なる充実に向け、とても嬉しく思っています。



大森消防少年団は、昭和52年11月23日に発団して以来、防火防災に関する知識、規律、責任感、協調性を身につけ、同年代の地域防災リーダー、また、将来の地域防災の担い手を育成することを目的として活動を続けています。

東京都
(大田区)
大森
消防少年団

現在は、宮井団長を中心に8名の指導者、18名の準指導者、62名の団員の計88名で活動をしており、入団希望者も後を絶たないほどの盛況ぶりです。

主な活動は、消防という仕事を理解してもらうために消防職員による活動訓練の見学や消防資器材を用いた訓練の体験から始め、規律訓練、火災予防運動の支援、野外キャンプ、社会福祉施設への訪問、消火訓練、応急救護訓練、結索訓練、通報訓練など、楽しいことから少し厳しいことまで色々な内容を盛り込んでいます。

今後も、団員にとっては「入ってよかった！」と思ってくれよう活動をし、保護者にとっては「入れてよかった！」と思ってもらえるような活動を、そして地域にとっては「頼もしい地域防災リーダーが育ってくれた！」と感じてもらえるような活動を続けていきたいです。

決して大規模な団ではないですが、その分チームワークは抜群で小回りも効くことから年間数々の小学校や町会・自治会といった地域の防災訓練に参加し、D級可搬ポンプの消火訓練、AEDの取り扱いなどの応急救護訓練、防災寸劇の披露等、地域の防災リーダーとして積極的に活動しています。

平成22年度は小学生による防災マップコンクールに参加し、前作品の反省点から目黒の地域特性やレイアウトの大幅な変更を行った結果、消防庁長官賞を受賞できたのは、大きな励みとなりました。

このように私たちの活動は地域に根差したものであり、これからも消防署や消防団と共に地域防災に少しでも貢献したいと思っています。



東京都(杉並区) 荻窪 消防少年団

荻窪消防少年団は、昭和54年7月に24名の団員をもって発足しました。現在は、団長、副団長を含めた28名の指導者と51名の団員をもって年間活動計画に基づき、毎月活動日を定め、規律訓練、応急救護訓練、結算訓練を基本とした充実した消防少年団の活動を行っています。



荻窪消防少年団では、一生懸命努力して、習得した技術を多くの方々に披露することにより、成果があがると考え、春、秋の火災予防運動期間中を捉えた各種イベントに積極的に参加し、地域と協働した活動を展開するほか、畑の耕しから始め、苗植え、弦返しを実践し、長い期間をかけてやっと実ったさつま芋を収穫して老人福祉施設に慰問に訪れる等、地域との交流を図るイベントを毎年実践しています。今年度の活動は、モデル少年消防クラブの名に恥じぬよう将来の防災リーダーとなるための知識技術を身に付け、強固なチームワークを養い、地域

東京都(荒川区) 荒川 消防少年団



荒川消防少年団は昭和51年11月に発団以来、地域の防災活動の担い手となる多くの団員を育ててきました。現在、寺島団長以下総勢53名で活動しています。平成23年4月には男女11名の新入団員を迎え、男子団員21名、女子団員11名計32名が在籍し、なかでも小学生団員が多くとても活発な団員たちです。

毎月の活動は、規律・消火等の基本訓練から、社会福祉施設や社明運動への参加など社会奉仕活動に貢献しています。また、基本訓練でのD級可搬ポンプについては、上級学年の団員のほとんどが取り扱え、消防団の操法大会でも見学者の皆さんに操法披露し、少年団員に対する大きな拍手を頂きました。日頃の訓練の成果を存分に発揮できることへの楽しさや、消火資器材を使いこなせるようになる楽しさを知り、今では初級学年団員も訓練を始めます。

に密着した消防少年団の活動を展開してまいります。

また2009年には、少年消防クラブの最高の賞である「ゴールド消太賞」も受賞し、もっと地域や社会に貢献できるよう日々励んでいます。今回、全国モデル少年消防クラブに選定されたことにより、団員たちも「更に元氣一杯!」を、心に誓っています。

東京都(荒川区) 尾久 消防少年団

尾久消防少年団は、東京都荒川区の西北部に位置する西尾久・東尾久・町屋地域に居住する小・中学生で構成されています。昭和54年10月27日に発団し、平成21年には発団30周年を迎えました。平成23年3月には、長年にわたる活動の功勞に対し、特に優良な少年消防クラブに授与される「ゴールド消太賞」を受賞しました。西川千恵子団長を中心とする指導者の下、防火・防災に関する知識や技術を身に付けるとともに、規律ある団体生活を通して責任感のある人間に成長するため、防火防災の広報活動と地域の美化を行う防災クリーン作戦、献血の呼びかけ、社会福祉施設の訪問など、社会奉仕活動などを展開しています。

現在の団員数は41名で、男子21名、女子20名。中学生団員5名、小学生団員36名です。小学1年生から中学3年生までの个性的で活発な団員たちは、お互いを

尊重しあい、助け合い、楽しく、地域の方々の温かいご支援に支えられながら、発団当時の団員たちの意見で決めた愛称「ジャガー隊」の名に恥じない素晴らしい活動をしています。

東京都(板橋区) 板橋 消防少年団



板橋消防少年団は、防火防災の知識・技術の習得と社会奉仕や相互協力の精神を養うことを目的に昭和54年2月に発団し、今年で32周年を迎えました。以来、平成21年4月に就任された千葉団長、尾花副団長、小高副団長を中心に、小学校3年生から中学校3年生まで39名の団員と16名の指導者等で月に1回から3回活動をしています。

当消防少年団は基本訓練などの消防署における活動のほか、消防団や区民消防隊の行事で少年団の演技披露をしたり、区民まつりでは、「防火子どもみこし」を担ぎ、火災予防や住宅用火災警報器の設置促進、#7119のPRを行うなど地域に密着した広報活動も熱心に行っています。また、高齢者福祉施設で

の奉仕活動、野外活動や街の防災訓練への参加など、幅広い活動を行っています。

今日までに多くの団員が地域社会に巣立ち、その後、住民防災組織等において地域防災の要として活躍しています。現在、板橋区でも首都直下地震の発生が危惧されており、消防少年団は地域防災力の貴重な戦力として期待されています。

東京都(板橋区) 志村 消防少年団



今後についても、指導者や先輩団員が築いてきた板橋消防少年団の伝統をしっかりと受け継ぎ、「七つの誓い」のもとに、礼儀正しく、明るく元氣な団員として活動に励んでいきたいと思えます。

私たちが志村消防少年団は、昭和53年(1978年)12月に発足し33年になります。江口団長以下、小学生団員42名、中学生団員14名の総勢56名で活動に取り組んでいます。内容は消火訓練をはじめ、規律訓練、ロープ結算、応急救護訓練、通報訓



練、D級可搬ポンプ操作と多岐にわたる活動しています。特に昨年の夏季野外活動では、1泊2日の日程で栃木県の秋山の里にて、規律や結算を取り入れたウォークラリーや、キャンプファイヤーを行いました。飯ごう炊飯ではファイヤーカレー品評会を行い、各班の腕を競い合いました。団体活動の中で団員の自主性と、チームワークが磨かれています。

また、地域のイベントでは消防の啓蒙活動にも積極的に参加して、団員のボランティアに対する意識を高めています。こうして、年間およそ20回の活動を行う中、成長していく団員が頼もしく見えます。今年度は、モデル少年消防クラブとして、より一層の技術を磨き、これからの防災に対応できる人材になるよう活動を展開して参ります。

東京都(江戸川区) 江戸川 消防少年団

江戸川消防少年団は、昭和51年7月に発団し、都内で2番目に古い歴史を持つ少年団です。前星野俊男団長から引き継ぎ本年5月1日に就任した伊藤智章団長をはじめ、28名の指導者及び準指導者、39名の団員で構成されており、熱心に活動しています。

また、同年代の地域の防災リーダーとして、応急救護法や結算訓練、地域の防災マップ作成等、防火防災に関する知識・技術の習得に励んでいます。特に、江戸川、荒川などの大きな河川に囲まれ、江戸川区総面積の約7割が海抜0メートル地帯である地域特性を踏まえ、着衣水泳や身近なものを利用した救助方法を体得しています。これからも伝統を守り、良い歴史を築くとともに、私たちの街がいつまでも安心して暮らせる街であるた

東京都(江戸川区) 葛西 消防少年団



葛西消防少年団は、平成12年8月に江戸川消防少年団から分離し指導者8名、団員22名で発団しました。昨年8月には発団10周年の節目を迎え、現在では森田好則少年団長を中心に18名の指導者・準指導者と74名の団員で活動しています。

地域奉仕活動では駅周辺や河川敷等での環境美化活動や、老人福祉施設の訪問も積極的にを行っています。特に、夏のキャンプは、団

(3面から続き)

員が実行委員として企画、計画、準備、進行までの全てを行うことで、企画力や指導力、危機意識を醸成し、リーダーとしての育成にも取り組んでいます。

東京都(江戸川区) 小岩 消防少年団

小岩地域は東京の東、江戸川を挟んで千葉県に面した江戸川区内に位置しており、マンションや戸建て住宅が多いながらも、畑には小松菜を始め花卉栽培で有名なビニールハウスもあり、自然も多数残されています。夏に江戸川河川敷で打ち上げられる14、000発の花火大会は、区民自慢の最大のイベントです。



青少年消防オリンピック大会に、日本初の代表として団員5名と副団長1名が派遣された輝かしい実績も残しておられます。

今年4名の新しい仲間を迎え、規律訓練、結算訓練、応急手当訓練等に加え、普通救命講習やD級可搬ポンプによる初期消火技術訓練の習得を予定しております。キャンプ等の団体行動を通して、自主性や協調性を育成し、また老人施設の訪問を通して、心豊かな奉仕の精神を学ぶとともに、年間を通じ、同世代の防災リーダーの育成と健全な精神の成長を養っていきたくと願っています。

東京都(調布市) 調布 消防少年団

「集まれー!」「基準!」隊長(小6)のかけ声で、入団する4名の仲間と共に調布消防少年団は、新年度の活動を開始しました。少し緊張しながらかけ声をかける杉崎新隊長を中心に、発団から31年の今年、小学3年生から中学3年生までの団員30名でのスタートです。

調布市は、NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の舞台となった街です。昨年の活動では、防災マップづくりとして深大寺周辺を歩きました。自然豊かな街の良さを再確認した団員たちは、「この街を自分たちが守るんだ」という思いを強くしたようです。



当少年団は、鼓笛隊を編成しており、消火器やロープを使っての基本訓練のほか、地域行事での楽器演奏やその練習等内容の充実した活動を月2回のペースで行っています。指導者のほとんどが少年団OBやOGであり、皆少年団に対する思い入れや愛情が強く、熱心に活動をサポートしています。

今年度より、モデル少年消防クラブとして一層充実した活動にするため、これまで以上に活発に活動していきます。

東京都(小平市) 小平 消防少年団

小平消防少年団は昨年30周年を迎え、深澤団長をはじめ指導者23名、小学生から中学生までの団員37名の総勢60名で活動しています。

私たちが住む小平は東京都のほぼ中央に位置し、中心には東西に青梅街道が、南側には歴史ある玉川上水が流れ、緑も多く自然が豊かなところ。小平といえど多摩川梨の産地として有名ですが、実は日本で初めてブルーベリーを栽培した発祥の地でもあります。小平消防少年団では今年も8月に小平市内の農園で、採れたての新鮮なブルーベリー狩りを行う予定です。

また、小平ならではの活動としては、毎年、小平市消防団で行われているポンプ車操法大会で、多数の来賓や消防団長、消防団員の大人たちを前に結算や規律訓練を展示しています。広報活動においても、市民まつりや産業まつりといった市の行事に、積極的に参加し、火災予防の呼びかけを行うなど、地域の安心、安全を目指して活動しています。



今後小平市民に愛される消防少年団を目指して、地域の防災リーダーになるべく日々活動に取り組んでいきます。

福生市、羽村市、瑞穂町及び横田基地を有する当地においての主な活動は、5月の入卒団式に始まり、お祭りやイベントでの鼓笛隊による防災パレードや火災予防キャンペーンの広報活動や老人ホーム訪問をはじめとする社会奉仕活動、更に野外キャンプ等のレクリエーション活動も行っています。

福生消防少年団は、昭和52年12月4日に都内で20番目の少年団として指導者9名、団員38名をもって発団しました。現在では、加藤団長のもと指導者16名、準指導者5名、福生隊、羽村隊、瑞穂隊の3隊43名の団員となり、防火防災に関する知識や技術を身につけるとともに、規律ある団体生活を通して責任感ある人間に成長することを目的に活動しています。



東京都(福生市) 福生 消防少年団

海老名市少年消防クラブは、将来の地域防災を担う人材を育成するため、少女の頃から団体活動を通じて防火・防災に関する正しい知識及び技能を学び、防火・防災思想の普及を図ることを目的として、市政施行40周年に合わせて、今年度発足しました。

発足した海老名市少年消防クラブは、小学4年生から中学3年生までの男女44名(男子24名・女子20名)で構成されています。

クラブの活動については、年間14の活動を予定していますが、海老名市民まつりのパレードの参加を初め、出初式、市の操法大会等にも参加する予定です。

4月16日(土)に少年消防クラブの第1回目の訓練活動を行いました。今回は、初めての訓練ということもあり、訓練礼式を主に実施し、被服等の採寸も合わせて行いました。規律ある訓練を初めて行ったクラブ員は、40分程の訓練にも関わらず最後にはみんな息のあった礼式となり、頼もしい限りでした。

今後、団員たちは「七つの誓い」のもと、防火防災に必要な規律・救急・結算・初期消火などの知識を身に付け、互いに協力助け合う精神を養い、将来の地域防災リーダーの担い手としての育成を目指して活動の輪を広げていきます。

現在各中学校でクラブ員を募集中です。先生の中には本市消防団員もおり、団の作業服を着てPRしてもらいました。

5月22日(日)南足柄市消防操法大会の中で、クラブの発足式を行いました。

今年度の活動として、夏休みに消防署での救命・放水等の各種訓練、春秋の火災予防運動で、生徒の地元分団の消防団車両に同乗して実施する広報パレード、消防団による訓練礼式など

みなさんご指導の程宜しくお願い申し上げます。

神奈川県(南足柄市) 南足柄市 中学校消防クラブ

神奈川県南足柄市では、本年3月に平成23年度モデル少年消防クラブの選定をいただき、「南足柄市中学校消防クラブ」を発足することとなりました。

現在、南足柄市には幼年消防クラブ、少年消防クラブ(小学生)があります。次世代を担う少年少女が、次世代を担う少年少女に消防思想の啓蒙を行い、長期的視野の中で、地域防災のリーダーたる人材を育成するため、市内の3つの中学校に消防クラブを設置します。

クラブの運営に万全を期すため、各中学校、足柄消防組合、南足柄市消防団、教育委員会、市民部防災安全課各代表による運営委員会を発足させ、瀬戸淳一南足柄市消防団長が、運営委員長に選任されました。

今年度の活動として、夏休みに消防署での救命・放水等の各種訓練、春秋の火災予防運動で、生徒の地元分団の消防団車両に同乗して実施する広報パレード、消防団による訓練礼式など

この間には1校区であったのが、人口の増大により3校区となり、現在は3校区で少年消防クラブを結成しており、その中の1校区、厚南少年消防クラブです。



山口県(宇部市) 厚南地区 少年消防クラブ

私たちの少年消防クラブは、昭和55年に立ち上げ、30年以上の歴史があります。

近年は、少子化のせいのか、応募者が少なく困っています。現在、クラブ員25名、今年度、中学生リーダーが7名入会しましたので32名の人数で今年度の行事に取り組みます。

活動内容は、規律訓練、県消防学校夏季合宿、キャンプ、出初式、山林防火パトロール等は3校区合同行事として行います。その他、各校区の行事、クラブ独自で決めた行事など年間約20回程度の行事をこなしていきます。

活動内容は、規律訓練、県消防学校夏季合宿、キャンプ、出初式、山林防火パトロール等は3校区合同行事として行います。その他、各校区の行事、クラブ独自で決めた行事など年間約20回程度の行事をこなしていきます。

中学生、高校生のリーダーを養成するには、これに合った行事にも取り組まなければならぬでしょう。私たち指導員もクラブ員と共に様々な活動を通じて防火意識の向上に努めていかねばならないと思います。

なお、3校区の指導員は皆、地域の有志の方々です。このため宇部市消防本部の方々には大変お世話になっていきます。



徳島県 (美波町)
ワイキキっ子
消防クラブ

美波町は徳島県の南東部に位置し太平洋を望み、海岸部は海亀が産卵をする砂浜、陸けい島、離島、海食崖、海食窪、海食洞、多様な岩礁など、非常に変化に富んだ海岸線となっております。多くは「室戸阿南海岸国定公園」に指定され、風光明媚なリアス式海岸となっております。ワイキキっ子消防クラブは、木岐小学校の5・6年生14名で構成され、平成23年度からスタートしました。

木岐小学校は、児童数26名の小さな学校ですが、みんな仲良く積極的に行っている地域活動に参加するなど、地域と密着した学校です。

これは、この地域の活動として、D-1級軽可搬ポンプ操法を習得し、毎年1月5日に行われる「美波町消防団出初式」で、大人たちに混じって操法の披露をした

と考えています。また、操法だけではなく、火災通報、消火器を使っての消火訓練、応急手当などを体験することも計画しています。

今後は海部消防組合や地元消防団員の人たちの協力の下、学校の仲間たちとともに社会奉仕の精神や責任感を養い、未来の防災リーダーを目指して頑張っていきたいと思えます。



高知県 (四万十市)
下田
少年消防クラブ

下田少年消防クラブは、高知県四万十市立下田小学校高学年の児童で構成されています。この地区は、清流四万十川の河口に位置し、南に太平洋を臨み豊かな自然に囲まれ、とても雄大な反面、自然災害などの危険性も高く、日頃か



ら地域防火・防災活動が活発に行われております。

下田小学校では、以前から、地元消防団に消防訓練の指導を頂いたり、避難箇所の巡回なども一緒に行っており、防災に対する意識が人一倍強いことから、少年消防クラブ発足の運びとなりました。

今後は、防災に関する学習、災害避難箇所の把握や点検、消火・救助・救急実技訓練などの指導を頂くとともに、率先的に自主防災組織や消防団活動に参加したいと考えています。

また、近隣少年消防クラブとの交流や地域の方々と関わりを持つことで、将来の地域防災を担えるようクラブ員が団結して、活動していきたいと思えます。

高知県 (香南市)
赤岡町
少年防災クラブ

高知県香南市赤岡町は、近い将来起こると言われている南海地震で、多大な被害が想定される沿岸地域に位置しています。

赤岡少年防災クラブは、香南市赤岡消防団の団員たちが「子どもたちに災害から自分の身を守る知識と技

術を身に付けさせ、地域の防災力と防災意識の向上に繋げたい」と赤岡小学校に働きかけを行ったことがきっかけで、平成17年に全児童164名をクラブ員として発足されました。

主な活動は、地域の危険箇所や避難場所を点検し、防災マップを作成する活動、香南市赤岡消防団と共に火災予防を呼びかける夜回りなどを毎年実施しています。

クラブ発足以降、全児童の机の横にヘルメットを配備し、日常生活の中でも防災意識が高まるような環境作りを努めています。

活動をしていく中で、クラブ員たちに一番伝えたいことは、「自分たちの地域は自分たちで守る」とこの大切さです。

今後は、実技体験、救命講習などを行い、未来の防災リーダーとして活躍できるように活動の幅を広げていくつもりです。



高知県 (黒潮町)
伊田
少年消防クラブ

当クラブの母体となる伊田地区の子ども会は、管轄の伊田分団とともに年末警



戒を毎年行ってきました。

また、学校での防災教育の他にも、「地域の子育て集会」という学校の住民を対象にした学習の場で、地域の方と共に防災について学んできた経過があります。

このように、当クラブの属する地域は、伊田分団、さくら消防クラブ(女性防火クラブ)、分団OB会などの関係者以外でも、総体的に消防防災に対する意識が高いという伝統的な風土があります。

今回のモデル事業を契機に、子どもたちが「消防クラブ」として活動することで、これまでの地域の文化を引き継ぎ、地域を守る消防防災の担い手づくりが活性化されることに期待しています。

福岡県 (八女市)
八女市矢部
少年消防クラブ

八女市矢部少年消防クラブでは、平成23年度から八女市立矢部中学校1年生を対象に少年消防クラブ(リーダー)を結成しました。

すべてのクラブ員は、小学校5・6年の2年間を通し、町歩き防災マップ作成

や防災行事に積極的に参加するなど、基本的な防火・防災に対する意識付けを行ってきました。

今回、モデル少年消防クラブへの選定に伴い、今までの活動で得た知識と技術を生かし、更なる技術の向上のため実践的な実技体験学習や救急法の習得を目指し活動していきたいと考えています。その他、5・6年生で構成された少年消防クラブ員との活動を共にし、リーダーとしての自覚を認識させ、小学生の見本となる人材の育成を行いたいと考えています。

現在クラブ員は15名ですが、更なる増員をはかり、地域一体となって少年消防クラブの活動の充実を目指します。



大分県 (日田市)
高瀬
少年消防クラブ

平成22年7月に日田市では初めての結成となる高瀬少年消防クラブが誕生しました。クラブ員は、高瀬小学校4年生の5名です。結成後、直ぐに少年消防クラブ員としての心得、最低限の訓練礼式、救助訓練体験、救急救命士による救急

訓練の見学等、日田消防署にて研修を行い少年消防クラブとはどんなものなのかを理解してもらいました。

8月には、22年度の重要活動に位置付けした防災マップの作成に着手しました。地域の防災は、多くの人たちの力で守られていることをどれだけ伝えることができるのかと不安でしたが、子どもたちは敏感に感じ取り、素晴らしい防災マップが完成しました。この防災マップは、小学生のぼうさい探検隊マップコンクールに応募し、審査員特別賞を受賞することができました。また、間近に迫った住宅用火災警報器の設置推進を促すため、地元消防団とともに広報活動も実施し、充実した年度となりました。

今後は、クラブ員を増やし、将来、地域の防災を担う大人になるよう活動を行っていきます。

これは、この地域の活動で、子どもたち一人ひとりが防災に対する知識と技術を身に付け、責任感や自主性を育て、地域一体となってクラブ活動の充実を目指していきたいと考えています。



沖縄県 (伊平屋村)
伊平屋村
少年消防クラブ

伊平屋村少年消防クラブは、沖縄県の最北端(人口1,300人余)にあり、今年4月立ち上がったばかり



りのクラブです。

小学5年生から中学3年生までの20名でスタートしました。スタートしたばかりで、これから課題も出てくると思いますが小さな離島でも、子どもたちが消防クラブにたずさわること

で、村民の消防に対する防火意識を高揚させると共に、村役場や地元消防団の方々と連携をとりながら、消火活動、応急手当、地域への啓発活動などさまざまな活動を行っていきたく計画しております。



「少年消防クラブ フォーラム2011」 に参加して

平成23年2月11日・12日に東京都千代田区「都市センターホテル」にて開催した「少年消防クラブフォーラム2011」の参加者から感想をお寄せいただきました。

札幌市 東月寒少年消防クラブ

部長 乙川 明



全国の少年消防クラブ指導者が一同に会し、フォーラムを実施できたのは素晴らしいことと思えました。意見交換会の我が班においては、出席者19名中、発言したのは8〜9名と、残り半数は自己紹介以外一言も発言がありませんでした。司会担当者は、発言の無い人に指名し発言を促し、

札幌市 川沿少年消防クラブ

山崎 英雄



フォーラムを振り返り、アメリカ義勇消防協会の青少年消防隊育成・支援プログラムにおいて、青少年消防隊に対し、アメリカ大統領

札幌市 伏古本町ひまわり少年消防クラブ

池本章



この度はアメリカ・ドイツの活動を聞かせて頂き、関係者の方々に感謝します。基調講演を聞いて、印象に残ったことは、日本よりもクラブの位置付けがしっかりしているということ



もっと社会的な位置付けが高まることを期待しながら、今回の貴重な体験を生かして活動していきます。

青森県 五戸高校少年消防クラブ

田中 さなえ



今回のフォーラムでは、他の指導者方と重要な意見交換ができ、大変うれしく思いました。特にアメリカ、ドイツ両

福島県 田村市立大越中学校消防クラブ

目黒 堂真



少年消防クラブフォーラムでは、基調報告という貴重な体験をさせて頂きました。大越中学校の少年消防クラブは地域の消防署員の方

東京都 北多摩西部消防少年団

団長 山口 重行



—シンポジウム・パネリストとして参加して—
外では雪が降る2月12日、シンポジウムが開催されました。前日に国内外の少年消防クラブ関係者の皆さんと、クラブ活動の内容

北海道 小平少年消防クラブ

勝原 盛



この度、少年消防クラブフォーラム2011に参加する機会を頂き、関係各位に心から感謝を申し上げます。基調講演では、アメリカ

12日目の意見交換会では、モデル少年消防クラブに選定され、支給された活動服を着用することにより責任感が表れ士気が昂揚した。また、各クラブの共通の

東京都 秋川消防少年団

宮岡 泰規



今回、私が興味を持った点は基調講演での「やる気を起こさせる指導について」です。アメリカでは活動時間数によって、Webサイトでの紹介や大統領から手紙が届く等の報奨があり、ドイツでは、子どもたち自身に活動をプログラムさせる等の指導をしています。

神戸市 ひよどり台防災ジュニアチーム

神戸市消防局 谷 敏行



私は少年消防クラブフォーラムに参加して、地域の防災力を向上させるためには子どもたちが防災意識を持つ必要があると感じました。防災意識は大人だけが持つものではなく、若い世代に引き継いでいくことが重要です。東日本大震災においても、避難所で必死に活動す

神戸市 たつの少年消防クラブ

河原 雄一郎



初めに東日本大震災において、お亡くなりになられた方々のご冥福と被災された皆様から御見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。さて、フォーラムに参加させて頂き、基調講演・報告は国内のみならず海外の活動についても講演して頂き、今後の活動の参考にさせていただきます。また、分科会においても各

広島県 府中町少年少女消防クラブ

府中町消防本部 東 直輝



フォーラムではアメリカ、ドイツから少年消防クラブ指導員を招き情報交換し、中高生の少年消防クラブの運営方法・指導方法などについての議論が多数ありました。アメリカやドイツでは小学生と中学生・高校生と年齢差が大きいため、それぞれに対する訓練等のプログラムを作成していることなど、とても参考になりました。

今回、他地域の少年消防クラブの様々な活動等に興味を持って参加させていた私を担当する鹿児島県伊佐市大口上中目丸少年消防クラブ員の増員や子どもたちが

鹿児島県 伊佐市大口上中目丸少年消防クラブ

伊佐湧水消防組合 鳥巢 信一



今回、他地域の少年消防クラブの様々な活動等に興味を持って参加させていた私を担当する鹿児島県伊佐市大口上中目丸少年消防クラブ員の増員や子どもたちが

鹿児島県 湧水町吉松少年消防クラブ

上月 俊久



全国の指導者や関係者の方々と、組織や活動の活性化に関する問題や方策等が議論され、大変有意義な経験をさせていただきました。子どもたちに対する防災

東京消防庁のアンケート結果から



このフォーラムには、東京都に所在する消防少年団の関係者が多数参加されました。ここに東京消防庁のご協力により、アンケート結果の一部を紹介させていただきます。

(主な感想、意見等)

◎他の都道府県や海外での様子が見え、改めて自分たちの団について考えるきっかけになった。◎府中消防団の発表がとてもよかった。後輩へのメッセージが印象に残った。

◎アメリカのシステム化された教育・広報プログラムは素晴らしいと思った。◎ドイツの消防に対する意識、公共心を見習いた

い。楽しく学ぶという考えが参考になった。◎地方では、消防団と良く協力していると感じた。

◎全国の団員たちが集まり交流するような機会があるとよい。

未曾有の震災により、改めて地域防災、危機管理に対する関心が高まっています。将来、地域防災の担い手となる子どもたちと共に、地域と連携して安全安心な街づくりに取り組んでいきたいと思えます。皆が心ひとつに、頑張りましょう。

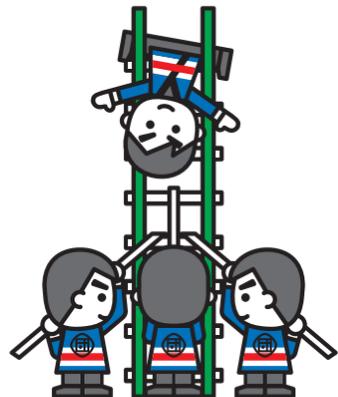
東京でも交流を増やし、消防団に繋がりたい。◎消防少年団での訓練を活かして、保育園や幼稚園に出かけて小さい子どもたちに指導しては。◎中学生以上が団に残ってもらえるような努力が必要だと感じた。



モデル少年消防クラブを充足させるに当たり各クラブがどのような活動を行っているか、勉強のために、今回、出席させていただき

初日の講演による内容はとても興味を引く内容であり、また、2日目の意見交換会では非常に参考になりました。

「自分たちの街は自分で守る」という、地域密着型の防災をこころがけ、防災訓練等に励んでいる姿に、負けられない思いを感じました。



◎本紙の既刊号は、日本防火協会のホームページ(www.n-bouka.or.jp)からご覧いただくことができます。

少年消防クラブの活動

富丘少年消防クラブ

北海道 札幌市に新しい少年消防クラブができました。札幌市は50クラブ、約1,000名が活動しています。

活動は、規律訓練やロープ結索訓練をはじめ、街頭防火啓発や冬季消火栓除雪、老人ホームへの慰問などを実施しており、クラブによって特色のある活動もしています(「防火七タづくり」や「防火花壇づくり」など)。

そんな中、昨年の秋、札幌市に51番目の少年消防クラブが誕生しました。札幌市の手稲山(夜景がとても綺麗です)のふもと、手稲区稲穂・金山地区の小学1年生から5年生ま

での子どもたち11名が集まり、「稲穂少年消防クラブ」が誕生しました。少年消防クラブは、各区に5クラブありますが、手稲区はモデル少年消防クラブとなった富丘少年消防クラブを含め7クラブと、クラブ活動がとても盛んです。

平成22年11月28日、稲穂少年消防クラブ員は結成後初めて、訓練を行いました。教えるのは富丘少年消防クラブの中学生たちです。まずは規律訓練。「整列」「気をつけ」など、初めてのことが多く、最初は緊張していましたが、活動服に身を包んだ中学生たちが、子どもたちに優しく、ていねいに指導し、皆少しずつ覚えていきました。

次に、一人ひとりにロープが手渡され、もやい結びなどを教わりました。「ここは、こうやって結ぶんだよ。」と、子どもたちに結び方を見せながら指導する中学生たち。大人の指導者たちは誰も教えませんが、富丘少年消防クラブの中学生たちは、クラブでは

準備指導者として、小学生を指導しています。ですので指導者は、中学生たちを信頼し、「厳しくも」あたたかい眼差しで、中学生の指導を見守っているのです。最後に、富丘少年消防クラブの中学生たちが、小型ポンプを使った放水訓練を披露しました。

稲穂少年消防クラブ員は、中学生たちが消防士さんと同じように、ポンプを操作し、ホースを延長し、放水する姿を見て、自分たちもやってみたい!と目を輝かせ、真剣に見入っていました。

その後、稲穂少年消防クラブ員は、富丘少年消防クラブ員と一緒に、JR手稲駅前で火災予防を呼びかけられました。

この日の活動の様子は、札幌市の広報番組(平成22年12月8日放送)で取り上げられました。

札幌市のホームページ(http://www.city.sapporo.jp/somu/tvradio/tvh.html)で見ることができます。みなさん、ぜひご覧ください。



入間市消防少年団

埼玉県
4月3日(日)入間市消防本部において、「平成23年度消防少年団入団式」が挙行されました。



今年度は新入団員15名を新たに迎え、総勢51名で防火・防災についての活動を行っていくことになりました。



新入団員たちは期待と緊張に胸を膨らませ、先輩団員たちも新しいメンバーを迎えて気持ちも新たに今年度も元気に活動してくれることでしょう。

式では来賓の方々から祝辞に真剣に耳を傾け、消防少年団の「七つの誓い」を元気に宣誓してくれました。様々な体験や学習を通して団員たちの防災防火の意識の向上に努めていきたいと思えます。

北多摩西部消防少年団

東京都
— 大切な自然を守れ！—
空気乾燥や強い風の影響で、いったん山林で火災が発生すると大火になるおそれがあることから、春の火災予



防運動期間中の3月5日(土)、北多摩西部消防少年団では、山火事防止看板を取り付けました。40枚の看板は、全て団員の手作りで、東大和市から武蔵村山市におよぶ多摩湖周遊自転車道路のフェンスに取り付けました。リスの形に切り抜いた木の板には「たばこのポイ捨てはやめよう」「大切なぼくらの森を守ろうよ」などと書かれています。ウォーキングやサイクリングを楽しんでいる人々か

ら時折「ごころうさま」と声をかけられ、用意した看板を1枚ずつ針金で丁寧に付けて、活動を終わりました。

中野消防少年団

東京都
披露—
1月29日(土)、中野消防少年団(牛山団長)では、今年最初の活動として、管内にある本郷氷川神社の節分祭に参加し演技披露をしました。



団員たちは、舞台の上で緊張しながらも救助活動で役に立つロープの結び方や三角巾による包帯法を披露

し、そのあと元気いっばいに「福はー内」「鬼はー外」と、豆をまきました。境内では団員募集活動のほか、住宅用火災警報器設置促進や救急相談センター利用のお知らせの#7119のティッシュを配り、広報活動を行いました。大勢の地域の人たちからも喜んでいただき、団員たちは「舞台から豆をまいたの初めてだよ。」「今年も楽しく活動したいね。」「とうれしそうに話していました。」



お知らせ

日本防火協会会長に秋本敏文氏が就任しました。(3月29日付)

宝くじは、
地方自治体の公共事業等に
幅広く使われています。

NEW!
ワクワク、
続々。

宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。

